

次世代の学校創生を目指す学校事務

「新たな学校事務の構築」(Ver1.1 H27年5月発行)の改訂について

中教審「次世代の学校・地域」創生プランによるチーム学校構想をもとに改正された学校教育法により、これからの学校事務職員は、校長のマネジメントを支える重要な総務・財務等に通じる専門職としての役割が期待されています。

法改正以前に策定された「宮事研グランドデザインVer1.1 新たな学校事務の構築」には、学校事務職員の「行動指針学校事務職員の使命と役割」や「学校事務の5つの機能」が示され、また5の機能ごとに個人の職能アップと、共同実施の組織力アップを図る目安として、「ステップアップ表」も示されました。その内容や盛り込まれた各項目の取組は、このままでも十分に「事務をつかさどる」に耐えうる内容になっています。

しかし、今回の改正を受け、次世代の学校創生に不可欠な教職員の中核としての学校事務職員像、および共同学校事務室(共同実施)像を示すためには、新たな価値やより踏み込んだ取組を付加することも必要と考え、「宮事研グランドデザインVer2.0 次世代の学校創生を目指す学校事務」として改訂を行いました。

ステップアップ表の活用について

グランドデザインリーフレットのステップアップ表を個人と共同学校事務室に分け、個人では教職員評価制度の役割達成度評価を関連付けて活用し、スキルアップの目標設定や業務改善を進める目安となる内容に改訂しています。

また、共同学校事務室のステップアップ表を参考に設置要綱にある年間計画や目標設定に活用してもらい、課題の発見・改善・解決の取組および運営スタイルをより明確に組織マネジメントの手法を取り入れられる内容に改訂しています。

そして個人と共同実施の振り返りシートを改め、目標達成ツール(マンダラチャート)を活用し、個人の取組を共同学校事務室内の研修を通じ決定したり、室長のリーダーシップおよびコーチング技術の向上に役立てるよう提案しています。

・ 宮事研グラントデザイン策定の歴史

1. 平成25年度(2013)

- 総会 (H25.5.24) 事業計画にて中期的目標で「教育行政職員である学校事務職員の果たすべき役員 (グラントデザイン) の策定」を決定
- 研究部会10回 (2年構想を1年で一次案 (Ver1.0)策定)
 - ・ 研究部長 大窪 浩二 (木城小)
 - ・ 研究部員 甲斐 暢夫 (広瀬小) 西 智之 (北浦中)
 - ・ 田上 修二郎 (富島中) 岩下 恵美 (田原中) 有本 みゆき (田原小)

2. 平成26年度(2014)

- 総会 (H26.5.23) 一次案 (「新たな学校事務の構築」 Ver1.0)発表
- 研究部会12回 (一次案修正(Ver1.1 2015/1/22)・リーフレット作成)
 - ・ 研究部長 大窪 浩二 (木城小)
 - ・ 研究部員 西 智之 (北浦中) 田上 修二郎 (富島中) 有本 みゆき (田原小)
 - ・ 研究担当副会長 西山 順子 (生目台東小)

3. 平成27年度(2015)

- 総会 (H27.5.22) リーフレット発表
- 全事研熊本大会第4分科会発表 (H27.8.6)
 - ・ 宮崎は今 パートV「新たな学校事務の構築」
 - ・ -学校事務の5つの機能とそのステップアップ(グラントデザインVer1.1を使用) -
- 研究部会 (グラントデザインに関連した実践事例の収集)

4. 平成30年度(2018)

- 総会 (H30.5.25) 学校教育法改正を踏まえたグラントデザイン見直し検討開始
- グラントデザイン改訂委員会を特別委員会として組織
- 改訂委員会3回 (法改正を受け、全面的に改訂しVer2.0を目指し本文を改訂)
 - ・ 改訂委員長 内田 泰彦 (大王谷中学校)
 - ・ 改訂委員 田上 修二郎 (北郷中学校) 田邊 譲治 (延岡南中学校)
 - ・ 児玉 佳那子 (鞍岡小学校)

5. 平成31年度 (令和元年度2019)

- 改訂委員会3回 (リーフレットの改訂)
 - ・ 改訂委員長内田 泰彦 (富島中学校)
 - ・ 改訂委員 原田 義和 (延岡東小学校) 木村 公俊 (恒富小学校)
 - ・ 児玉 佳那子 (鞍岡小学校) 森山 佳 (坂本小学校)
 - ・ オブザーバー 田邊 譲治 (延岡南中学校)
 - ・ アドバイザー 田上 修二郎 (フリー)

6. 令和2年度 (2020)

- 総会 (R2.5.22) グラントデザイン改訂版 (Ver2.0) 発表～予定～

1 グランドデザイン改訂の目的

(1) 「事務に従事する」から「事務をつかさどる」へ

平成29年4月1日、学校教育法が改正され学校事務職員の職務規程が、「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に変更されました。この改正の趣旨は、学校組織マネジメントの中心となる校長・教頭の業務負担が増加するなか、学校におけるマネジメント機能を十分に発揮できるようにするため、学校事務職員がその専門性を生かして、学校の事務を一定の責任をもって自己の担当事項として処理するとともに、より主体的、積極的に校務運営に参画することを求めることにあります。つまり、これからの学校事務職員は、校長のマネジメントを支える学校運営チームのなかで、唯一の総務・財務等に通じる専門職として、学校運営の中核を担うべき存在であることを、法律上でも明確に位置づけたこととなります。

一方、宮崎では平成8年度に「事務処理規程」を制定し、それまで県内各市町村で様々だった学校事務の処理基準や様式を統一するとともに、学校事務職員を「事務主任」と位置づけ、事務主任が担当する指定事務について、その処理方法と責任体制を明確にしました。この取り組みによって、現在学校の事務処理として当たり前のように行われている、文書取扱時の起案・決裁の方法、公印の取り扱い、その他様々な事務処理のプロセスが定着し、今に至っています。また今回は地教行法も同時に改正され、新たに「共同学校事務室」の設置が可能となりましたが、その原型である共同実施を試行段階から全県での実施に至るまで、全国に先んじて取り組んできたのも宮崎でした。このように、宮崎では県教育委員会と宮崎県公立小中学校事務研究会等との密接な連携もあって、これまでも「事務をつかさどる」を先取りした形での制度改正が進められてきたところです。

(2) 宮事研グランドデザインの策定

しかし、平成11年に始まった学校事務職員の任用一本化以降、知事部局からの出向者の増加と学校事務採用職員の退職が続くなかで、せっかく整備された「事務処理規程」が機能しなくなるとともに、「事務主任」の役割やその存在自体さえも、時間の経過とともに不明確になってきました。その結果、これまで蓄積された学校事務の経験や知見の継承が困難になり、明文化こそされていませんが「事務処理規程」の中に盛り込まれた学校事務の理念も、だんだんと見えづらくなっていました。

このような状況を打破するため宮崎県公立小中学校事務研究会では、諸先輩から繋いできた学校事務の理念を再確認する意味もあり、平成27年に「宮事研グランドデザイン 新たな学校事務の構築」(Ver1.0およびVer1.1)を策定しました。その中で学校事務職員の行動指針として示された「学校事務職員の使命と役割」については毎回の宮事研総会資料に掲載され、学校事務の理念継承という役割を果たしています。また、学校事務職員が学校運営組織の中で担うべき機能を、学校事務の5つの機能として分類し、それぞれの機能ごとに個人の職能アップと、共同実施の組織力アップを図る目安として、ステップアップ表を作成しました。このステップアップ表を活用することにより学校事務職員の経験の違いや、共同実施の環境の違いを超えて、必要な学校事務の技能の習得や業務の改善につなげていくことで、個人や共同実施組織での学校事務のレベルアップを目指しました。

(3) さらなる前進をめざして

このグランドデザインが示した「行動指針学校事務職員の使命と役割」や「学校事務の5つの機能」と「ステップアップ表」に盛り込まれた各項目のごとの取り組みは、このままでも十分に「事務をつかさどる」に耐えうる内容であります。今回の学校教育法等の改正を受け、次世代の学校創生に不可欠な教職員の中核としての学校事務職員像、および共同学校事務室（共同実施）像を示すためには、新たな価値やより踏み込んだ取り組みを付加することも必要と考えられます。また、出向者のさらなる増加、2校目3校目を経験している出向者の存在、そして教育行政採用の再開など、学校事務職員の人材育成に関する状況の変化に対応する必要も出てきました。こうしたことから本研究会では平成30年度特別研究委員会を設置し、検討を重ねた結果、ここに「宮事研グランドデザイン～次世代の学校創生を目指す学校事務」（Ver2.0）として改訂を行いました。

2 改訂のあらまし

(1) 行動指針 学校事務職員の使命と役割

学校事務職員の職務規定が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に変更されましたが、学校事務職員の行動が最終的には「児童生徒・保護者・地域の願いに応える」という学校事務職員の使命（ミッション）は変わることのないものと考え、今回学校事務職員の使命に関しては、手を加えませんでした。また共有したい価値観についても、現在の内容がすでに「つかさどる」にふさわしいものであり、学校事務職員として普遍的な姿を示していると考えます。

一方で、学校事務職員の役割（ビジョン）については、「事務をつかさどる」という視点を加えた場合、重視される役割の順位にも変化が生じるものと考えます。具体的には、従来重視された正確かつ迅速な事務処理能力に変わり、これからは学校全体を見渡し、問題を発見し解決する思考力を持つことが、最も重要な役割となるということです。また、学校内での多種多様な職員間でのチームとしての協働や、学校外での市町村教育委員会事務局や保護者・地域との渉外・交渉など、様々な場面で連携を推進する役割も重要になっていくものと考えます。

こうした観点から学校事務職員の役割については、内容を強化する方向での加筆をするともに、並べ方を工夫してより印象が深まるようにしました。

(2) ステップアップ表の改訂

ステップアップ表は個人と共同学校事務室に分け、個人では教職員評価制度の役割達成度評価を関連付けて活用し、スキルアップの目標設定や業務改善を進める目安となる内容に改訂しています。

また、共同学校事務室のステップアップ表を参考に設置要綱にある年間計画や目標設定に活用してもらい、課題の発見・改善・解決の取組および運営スタイルをより明確に組織マネジメントの手法を取り入れられる内容に改訂しています。

（ステップアップ表は別紙「宮事研グランドデザインリーフレット」（Ver2.0）を参照）

(3) フィードバックシステムの改訂

フィードバックシステムは「ステップアップ表」と「振り返りシート」を活用した、個人および共同実施のスキルアップや業務改善を目指すシステムです。今回の改訂では、あまり活用されていなかった「振り返りシート」を新たに「目標達成ツール（マンダラチャート）」に発展させ、合わせて「教職員評価制度」と「組織マネジメント」の考え方を活用します。

また、共同実施から共同学校事務室への移行を機に、室長のリーダーシップにより共同学校事務室での協議を経て個人の目標設定やそれを達成するためにどのように行動するかを、「目標達成ツール（マンダラチャート）」事務職員を目指します。

まず、個人では「ステップアップ表」と「教職員評価制度」を関連付けて活用し、業務改善を進めます。具体的には「教職員評価シート」の作成にあたって、今年度の取り組みについては、ステップアップ表の5つの機能の中から自分のステップにあう項目を選び、役割達成度評価の担当業務および役割・目標設定に活用できるようにします。

この目標設定に関しては、各校の学校経営案の事務部等の内容や役割達成度評価の「事務室の経営方針等」を共同学校事務室で協議して決めたり、場合によっては共通の内容にするなど室長のリーダーシップ及びコーチング技術の向上を期待します。

その後、実際の取り組みに対する自己評価に加え、中間ミーティングや「フィードバック」での管理職による評価を加味し、成果や課題を振り返り次年度へ生かします。

また共同実施では「共同学校事務室」への移行を前提に、業務内容の確認や運営スタイルに、より明確に組織マネジメントの手法を取り入れます。具体的には、宮崎県公立学校共同学校事務室設置要綱等に従い年度当初の運営協議会にて協議・決定される年間計画や、目標、取り組む具体的な業務内容にステップアップ表を活用します（PLAN）。その後は逐次進捗状況を確認し、必要であれば業務内容等に修正・改善を加えつつ実行します（DO→CHECK→ACTION→DO）。そして年度末の協議会において、取り組みの成果と課題を整理・分析し次年度へ生かします。

(4) 研修カリキュラムの削除

学校事務職員の研修カリキュラムについては、学校事務職員のキャリア形成やそのモチベーション維持について大変重要なシステムですが、本来は任命権者である宮崎県教育委員会が主体的に構築し実施するものであること、及び学校事務職員の研修実施に関する県教育委員会と宮事研の関係の整理が進んでいないこともあり、今回の改訂では一時的に削除しました。しかし、研修は学校事務職員のステップアップ及び人材育成のための重要な要素であることに変わりはありません。今後もステップアップ表の5つの機能に沿った形での研修カリキュラムの開発を、継続して進める必要があります。

3 おわりに

宮崎の学校事務は、現在も様々な課題に直面しています。プロパーと呼ばれる学校事務採用職員の減少による、経験と技術の消失の問題。経験の浅い出向職員を学校事務専門職としてどのように育成するのかという課題。共同実施と共同学校事務室の課題等々、全県的に取り組まなければ解決しない課題が山積しています。

これらの課題を乗り越えて、今回の学校教育法の改正の趣旨に沿った学校事務を確立するためには、プロパー、知事部局採用者、臨時的任用職員を含めた県内のすべての学校事務職員が、一つの方向を向いて進む必要があります。このグランドデザインがその道標となり、進むべき方向を示すことによって、宮崎の学校事務が子どもたちの豊かな成長をしっかりと支え続ける存在となることを期待します。

宮事研グランドデザイン改訂委員会

平成 30 年度委員

- 田上 修二郎（北郷中学校）
- 田邊 譲治（延岡南中学校）
- 児玉 佳那子（鞍岡小学校）
- 内田 泰彦（大王谷中学校）

令和元年度（平成 31 年度）委員

- 原田 義和（延岡東小学校）
 - 木村 公俊（恒富小学校）
 - 児玉 佳那子（鞍岡小学校）
 - 森山 佳（坂本小学校）
 - 内田 泰彦（富島中学校）
- （オブザーバー）
- 田邊 譲治（延岡南中学校）
- （アドバイザー）
- 田上 修二郎（フリー）